

第80回国民スポーツ大会青森県準備委員会 第12回総務企画専門委員会 結果概要

1 日 時

令和5年6月5日（月）10：30～11：30

2 場 所

青森県庁南棟2階中会議室

3 出欠状況

出席者 12名（うち代理出席1名）

欠席者 4名

4 議事概要

（1）委員変更の報告

委員の変更について報告

（2）説明・報告事項

①第80回国民スポーツ大会準備経過

②第80回国民スポーツ大会青森県準備委員会決定事項

③第80回国民スポーツ大会開催予定施設の名称変更について

事務局から説明・報告。質疑等はなし。

（3）審議事項

①第80回国民スポーツ大会・第25回全国障害者スポーツ大会開催準備総合計画
（第4次）改正案

事務局から説明。原案どおり可決。質疑等はなし。

②第80回国民スポーツ大会競技会場の変更（案）

事務局から説明。原案どおり可決。質疑等はなし。

→審議事項については、次回の常任委員会における審議事項として付議される。

（4）その他

（戸塚委員）

質問というより意見だが、資料を拝見し、それぞれの担当部署で粛々と計画に従って進められていることを理解させていただいた。

国民スポーツ大会・全国障害者スポーツ大会が近くなってきて、色々な組織も充実してきたという中で、これまではどちらかというとハード面や、環境を整えるという作業が一つの大きなものだったかと思うが、ここからはいかに内容を充実させるかというところだと想像している。

今回この会議に出席するにあたり、国民スポーツ大会の開催基本構想をいま一度確認させていただいた。基本構想の中にいくつか目標や目指す方向があり、その目指す方向の一番目が「県民の誰もがスポーツに親しむ国スポ」となっている。それをさらに細かくすると、「スポーツを通じた健康づくり、生きがいくりの推進」、「将来にわたり持続可能な競技力の向上」、「スポーツへの関心の広がり」という形で整理されていて、これに関連した文化プログラムが総務企画の大きな計画に含まれていると思う。そこで、県民の誰もがスポーツに親しむ国スポという部分では、いかにスポーツ文化が県民に理解・定着し、それが今後、国スポ・全国障害者スポーツ大会が終わってからもずっとその文化が残ること。それがレガシーという大目標の具現化に繋がっていくのかなと思っている。

競技力向上というのは国スポ・障害者スポーツ大会ではわかりやすい方向性であるが、県民のスポーツ文化については、スポーツが、「する・みる・ささえる・しる」というすごく広範囲に渡ってきている昨今、この観点から、どのようにアプローチしていくかという部分も含めて、より具現化できるような形をお考えいただければと思う。

専門委員会の中には広報・県民運動専門委員会もある。県民運動という部分では、県民が実際スポーツをする場、またはボランティアとして大会を支える場等、しっかり棲み分けをしながら、最終的に、目指す方向の1「県民の誰もがスポーツに親しむ国スポ」の実現が、2巡目の国スポで非常に重要である。特に、健康長寿ということが大きな課題となっている青森県では、県民へのスポーツ文化、それも今の時代背景に沿ったスポーツ文化の定着、これをお願いできればと思う。

(事務局)

今、戸塚委員がおっしゃられたことはまさにその通りで、広報・県民運動の専門委員会とも連携しながら進めていきたいと考えているため、これからも色々とおアドバイスをよろしくお願いします。